

# 次期一般廃棄物処理施設整備基本構想【概要版】

## 1. はじめに

本組合は、美濃加茂市、可児市、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村及び御嵩町の2市7町1村で構成されており、平成11年度から一般廃棄物処理施設(可燃ごみ処理施設及びリサイクル施設)として「ささゆりクリーンパーク」を稼働しています。

当施設は、地元との協定に基づき稼働期間を40年間としているため、稼働期限の令和20年度末までに次期ごみ処理施設を建設し、令和21年度から稼働を計画しています。

本構想は、将来の廃棄物処理や社会情勢を考慮し、次期ごみ処理施設の整備の方向性を定めることを目的とします。

## 2. 基本方針

国が示す「廃棄物処理施設整備計画」を踏まえ、5つの基本方針を設定し事業に取り組みます。

### ① 安全・安心・安定的な処理ができる施設

- 適切な維持管理のもと、長期的に安全・安心・安定稼働を行える施設
- ごみ質やごみ量の変動に柔軟に対応できる施設

### ② 脱炭素社会に貢献できる施設

- 焼却エネルギーを効率的に回収し、有効活用を図る施設
- 新技術導入により、省エネルギー化や温室効果ガス排出量の削減に貢献できる施設

### ③ 災害に強い施設

- 耐震性を有し、災害廃棄物を迅速かつ円滑に処理することができる施設
- 災害時でも処理が継続できる強靱な施設

### ④ 循環型社会の構築に貢献できる施設

- 廃棄物の排出を抑制し、効果的、効率的にリサイクルを推進できる施設
- 循環型社会形成の取組みや環境学習、環境啓発に活用でき、地域に親しまれる施設

### ⑤ 経済性に優れた施設

- 建設費、運転・維持管理費などトータルコストの抑制と費用対効果を考慮した施設
- 設備保全や設備更新を計画的、効率的に実施が可能な施設

## 3. 施設規模

	項目	単位	計画条件
焼却施設	計画処理量(可燃ごみ)	t/年	49,000
	通常ごみ処理規模	t/日	182
	災害ごみ処理規模(通常ごみの10%)	t/日	18
	必要施設規模	t/日	200
リサイクル施設	① 破碎設備		
	計画処理量(粗大ごみ、不燃金物)	t/年	2,500
	必要施設規模	t/5h	12
	② 手選別設備		
リサイクル施設	計画処理量(不燃ガラス、びん)	t/年	500
	必要施設規模	t/5h	3

## 4. 処理方式

焼却施設の処理方式は、実績などを考慮し『ストーカ方式、2炉構成』を基本とします。

焼却灰については、全量資源化を基本とします。

## 5. 公害防止基準

各種公害防止基準は、既存施設を参照して設定します。

項目(排ガス規制値)	単位	法規制値	既存施設
ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.04	0.02
硫黄酸化物	K値	11.5	-
	ppm	(約2,100)**	80
塩化水素	ppm	430	100
窒素酸化物	ppm	250	150
ダイオキシン類	ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	0.1	0.1
水銀	μg/m <sup>3</sup> N	30	50

※参考値：煙突高さ、排ガス量、排ガス温度等によって変動します。

### ◆排水処理基準

プラント排水は、場外に放流しないクローズドシステムもしくは公共下水道への放流を基本とし、基本計画策定に向けて検討を行います。

## 6. 余熱利用

余熱利用は、場内利用(プラント設備、給湯、空調)及び発電(売電)とし、場外利用については、基本計画策定に向けて周辺のニーズなどに応じて検討を行います。

## 7. 事業方式

事業方式は、本事業への適合性を考慮し、『公設民営(DBO方式)』を基本とします。

## 8. 整備スケジュール

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	～	令和15年度	令和16年度	～	令和20年度	令和21年度～
候補地検討		住民説明・協議			用地取得							
基本構想	建設候補地順位付	建設検討委員会 〇市町村協議会 ・受入品目 ・施設規模 ・余熱利用など		基本計画	建設予定地決定	地質・土壌汚染調査 ・環境影響評価 ・造成関連事業 (測量、設計、工事) ・PFI等導入可能性調査 ・事業者選定			建設事業者決定	建設工事	新施設供用開始	

## 9. 概算整備費

近年の半導体・鉄鋼などの不足及び高騰により、将来的な建設費の予測が困難になっています。

	近年の実績	メ-カ-アンケートの結果
焼却施設	200億円	260～290億円
リサイクル施設	20億円	30～50億円

※メーカーアンケート(4社)は、令和15年度頃から建設を開始する前提としています。(用地費、造成費などを除いています。)

## 10. 課題整理(継続検討課題)

- 受入品目
  - し渣、脱水汚泥(下水道脱水汚泥含む)
  - 有害鳥獣(大型)
- 施設規模
 

構成市町村において令和10年度までにプラスチック資源の分別収集を開始することから、その動向により、計画ごみ質、計画ごみ量を見直し、施設規模を再設定します。
- 処理方式
 

『ストーカ方式』を基本としますが、灰の資源化などの社会情勢や事業者選定時の事業者提案により最適な処理方式を選定します。
- 灰の資源化
 

現在は外部委託をしていますが、今後の社会情勢を踏まえ、処理方式とともに検討を行います。
- 事業方式
 

『公設民営(DBO方式)』を基本としますが、PFI導入可能性調査により再検討を行います。
- 公害防止基準、余熱利用、付帯施設・付帯設備
 

基本計画策定に向けて検討を行います。